

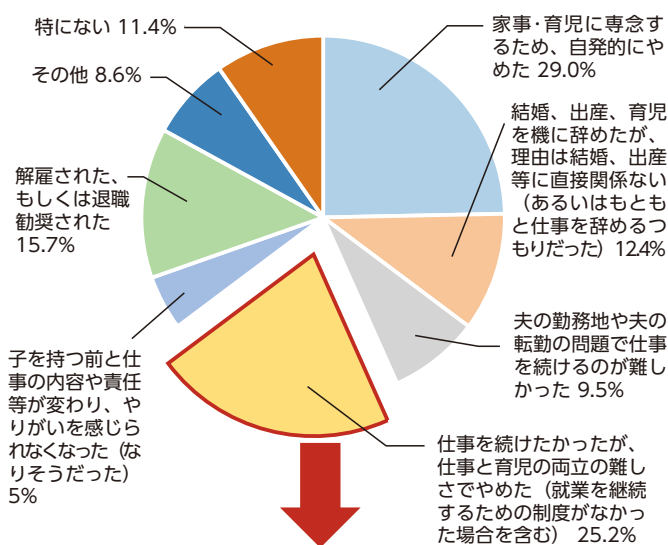
② 人材の定着

せっかく育成し、活躍している従業員が仕事を辞めてしまうのは、企業にとって大きな損失です。特に人口が減少し、人材の確保が難しくなるこれからの時代には、**今いる人材をいかに大切にすることが重要**となります。

結婚・出産しても仕事を辞めず、一生仕事を続けたいと考える女性が増えていますが、依然として約5割の女性が妊娠・出産前後に退職をしています。(国立社会保障・人口問題研究所「第15回出生動向基本調査」2015年)

妊娠・出産を機に退職した理由としては、「自発的に辞めた」が29%、「両立が難しかったので辞めた」が25%となっています。「両立が難しかったので辞めた」と回答した人に更に詳しい理由を尋ねたところ、「勤務時間があいそうもなかった」(56.6%)、「職場に両立を支援する雰囲気なかった」(34%)との回答がありました。職場が子育て女性の仕事と家庭の両立を応援することで、女性従業員の離職を防止する可能性が高まるといえます。

妊娠・出産を機に退職した理由



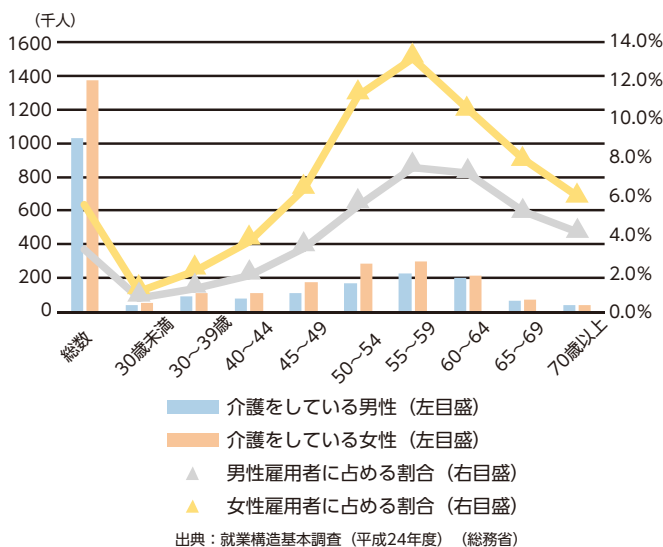
注：就業形態は正社員（末子妊娠時）

両立が難しかった具体的理由

- ①勤務時間があいそうもなかった(あわなかった) (56.6%)
- ②自分の体力がもたなそうだった(もたなかった) (39.6%)
- ③職場に両立を支援する雰囲気がなかった (34.0%)
- ④子どもの病気等でたびたび休まざるを得なかった (26.4%)
- ⑤会社に産休や育休の制度がなかった (22.6%)
- ⑥つわりや産後の不調など妊娠・出産にともなう体調不良のため (20.8%)

出典：仕事と家庭の両立支援に関する実態把握のための調査研究事業（平成27年度）
（厚生労働省委託事業：三菱UFJリサーチ&コンサルティング）

男女別年齢階級別介護をしている雇用者数と雇用者総数に占める割合



出典：就業構造基本調査（平成24年度）（総務省）

さらに深刻なのが、介護と仕事との両立の問題です。

現在、群馬県の人口の4人に1人は高齢者です。元気な高齢者も多い一方、75歳以上の方の3割は介護・支援を必要とする状態です。

介護をしながら仕事をしている人の割合は年齢が上がるごとに高まっていき、55~59歳女性ではおよそ8人に1人にも上ります。介護と仕事を両立できる職場でないと、企業のベテラン・中堅社員など貴重な戦力が、「介護離職」に陥ってしまうことも…。実際に、介護と仕事の両立ができずに職場を去る人は、県内で年間約2,000人もいます。